

レベル1/72シリーズ マッキ MC200 サエッタ



H-657 1/72スケール

【解説】

イタリアのマッキMC200サエッタは第二次大戦の戦闘機の中でも最も頑丈な飛行機の一つです。

この戦闘機は、あの有名なレース用飛行機マッキカストルディの設計者マリオカストルディによって開発されたものです。

マッキMC200はほとんど全てのイタリア軍の戦闘に使われ、ドイツの急降下爆撃機護衛にも活躍した。

この新しい単葉機はイタリア空軍に双手を挙げて受け入れられた訳ではなかった。スピードはのろくても敏捷に飛びまわる複葉機に慣れきっていたパイロット達はこの優れたサエッタを好まなかった。

しかし、まもなくサエッタは実戦において英国のスピットファイヤーやハリケーンに勝つてからはパイロット達も改めてこの戦闘機を見直す事になった。サエッタが当時のイタリアの戦闘機の中でも一番優れていることが判ってからは大々的に生産が行われやがてイタリア空軍の主力となり、イタリアは全面的にこの戦闘機に頼っていたが、その後このMC200がある飛行状態になると失速するという致命的な欠陥のあることがわかった。

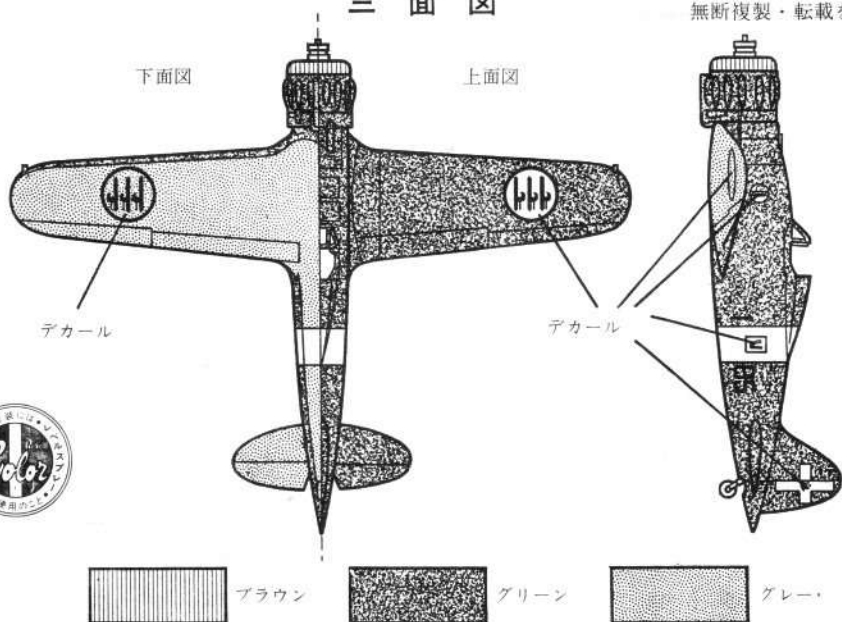
二回の墜落事故で、サエッタの飛行は全て中止させられ、その将来が危ぶまれたが、原因は翼の設計にある事がつきとめられて、ほんの少々の改良で問題は解決した。サエッタの安全性はその後根本的な変更なしに活躍していたことから証明されています。

サエッタは約1000機生産され、イタリアの敗戦後に23機のサエッタが連合軍側に使われたが、この戦闘機を操縦した連合軍のパイロット達もこれを称賛し、この設計者に最大の賛辞をおくっている。

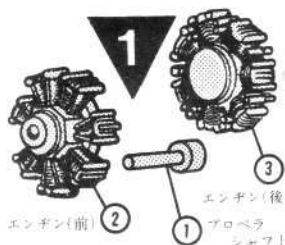
サエッタの性能・規格は、翼長：10.05m、全長：8.20m、全高：3.50m、最高速度500km/h（高度4,400m）、実用上昇限度：8,800m、エンジン：フィアットA.74F.C.38 870馬力、装備は12.7mmフレダーサファット機関銃2基。

三面図

無断複製・転載を禁ず。



注意：セメントはつけすぎないように、又目や衣服につけない様に注意して下さい。セメント、ペイントは必ずプラスチックモデル専用のものを御用意下さい。では組立をはじめましょう。第一図を御覧下さい。

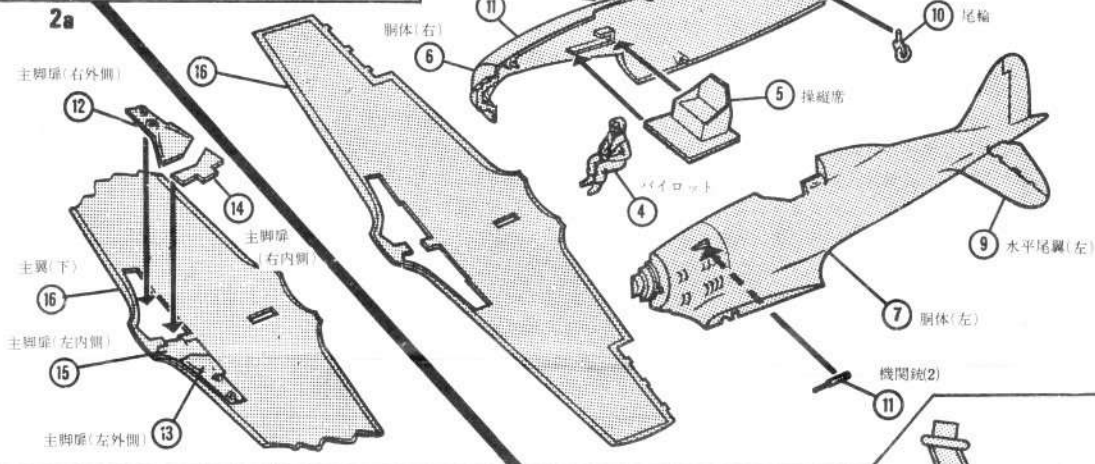


エンジンを塗装してよく乾燥させてから、①を②に差し込んで（接着せずに）、②と③を接着します。

スタンドを使用する場合は⑬のスタンド支柱差し込み溝を切り取っておいて下さい。
パイロットと操縦席を塗装してよく乾燥させてから、④と⑤を接着し、これを図のように⑥の指定の位置に接着します。⑥と⑦をピッタリ合せて接着します。⑧⑨⑩⑪を図の指定の位置に接

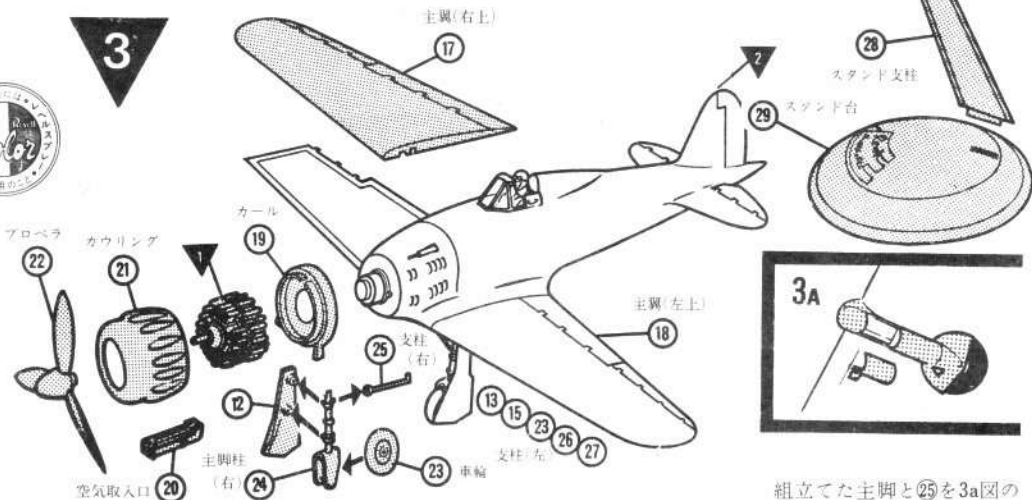
着します。飛行状態に組立てる場合は、2a図のように⑬に⑫⑬⑭⑮⑯の各扉を閉じた状態に接着して、⑬を胴体に接着します。着地状態に組立てる場合は次の3図のように⑥の指定の位置に接着します。⑥と⑦をピッタリ合せて接着して下さい。

2a



2

3



⑬⑭を図のように指定の位置に接着します。2の機首に⑬と1で組立てたエンジンを接着します。⑫に⑯を接着します。⑰⑱は接着剤をつけずに指定の位置に

押し込んで下さい。プロペラとカウリングをはずせばエンジンが見られるようにするためです。⑲を⑳に差し込んで（接着せずに）、㉑と㉒を図のように接着します。

組立てた主脚と㉑を3a図のように接着します。左側の主脚も同様に組立てて接着します。㉒は開いた状態に接着します。仕上げ塗装は表の塗装図を参照して下さい。

3a